

安行小の環境学習・活動の紹介

コンポストで土づくり

菊次 哲也

これまでにも安行小学校の環境活動として牛乳パック・古紙リサイクルと

エコキヤップのリサイクルについては紹介してきました。リサイクルとは「再循環」ということで、一般的には、廃棄物等を再資源化



し、新たな製品の原料として利用することをいい、資源再生、再資源化、再生利用、再生資源化等とも呼ばれています。

安行小学校では牛乳パック・古紙とエコキヤップ以外にも一つ「リサイクル」に取り組んでいます。コンポストで土づくりという「生ごみリサイクル」です。野菜くずや残飯などの食品廃棄物（生ごみ）を堆肥に変えるときに使う生ごみ処理機や容器のことをコンポストといいます。

全国的に生ごみの堆肥化は全体の5%程度しか進んでおらず、家庭から出る生ゴミの処理は、川口市はもちろん全国的に大きな問題

です。家庭から出た生ごみのリサイクルを進めるためには、出た場所やその近くで減量、堆肥化して地域内で活用するのが最善の方法です。しかしコンポストは、悪臭が発生しやすいことなどもあって敬遠されがちです。

安行小学校では環境委員会が中心となってコンポストによる土づくりを進めています。残飯全部を入れていくと、どうしても悪臭が出てきます。そこで給食でデザートとして果物が出る日を「コンポストの日」として、昼の放送で呼びかけて給食当番の子どもが果物の皮だけを自分でコンポストに入れています。最後に環境委員会が上から土をかけ、土の中の微生物が皮を分解して堆肥を作るといわけです。

低学年の子どもたちは不思議そうな顔をしてコンポストに果物の皮をコンポストに入れていきます。「これ、どうなるの?」「この皮がコンポストの中でいい土になるんだよ」「ビニールの手袋は分解しないから入れないよ」と委員会の高学年が声をかけます。

給食当番は交代で回っていきますから、卒業まで6年間のうち何回かはコンポストを経験することでしょう。何気ない日常生活のなか、コンポストを経験することで、環境を守る感受性が育っていったほしいものです。